

未来子どもチャレンジ TAKE OFF DAYにおける 支援の会の活動について

(公社)福岡県青少年育成県民会議では、今年度の新規事業として、子ども達が様々な体験活動に参加し、自らの可能性に気づき、それぞれの夢に向かってチャレンジすることを全力で応援する「未来子どもチャレンジ応援プロジェクト」に取り組むこととなりました。

この新たなスタートとして、子ども達が様々な体験活動に触れるきっかけとなるように、福岡国際センターにおいて「未来子どもチャレンジ TAKE OFF DAY」が開催されました。

未来子どもチャレンジふくおか支援の会は、県内の子ども食堂利用者等を対象に、会場までの無料送迎バスのチャーター、仕事等で多忙な保護者の子どもが引率者なしでも参加できるように会場での見守りボランティアの手配、会場内の体験ブース利用料の補助や軽食の提供といった支援を行いました。

1 無料送迎バスの利用者数について

- 161名(子ども115名、保護者等46名)にご乗車いただきました。

地区	乗車人数	うち子ども	
		うち子ども	うち保護者等
筑紫	47	33	14
北九州	11	11	
宗像粕屋北部	26	21	5
筑豊	8	5	3
糸島	49	32	17
筑後	20	13	7
合計	161	115	46

2 保護者(引率者)無しで来場した子どもの対応について

- 子どもだけで乗車した31名については、バス車内では添乗員が、会場内では九州工業大学や九州大学等のボランティア26名が見守りを行いました。

3 TAKE OFF DAYでの対応について

<無料送迎バス利用者について>

- 子ども達は会場に10時前に到着。各体験ブースで、茶道体験、ANAお仕事体験や折り紙ヒコーキ飛ばしを行いました。
- 12時からのうたのお姉さんのミニライブを鑑賞。12時30分ごろ帰路につきました。
- 帰りのバスの発車が12時を過ぎていたことから、車内で軽食(パン、お菓子、お茶)を配布しました。

※ 当日の様子は下記のQRコードからご覧になれます。



4 参加者の声

- お誘いありがとうございました。おかげさまで子ども達も大変喜んでおりました。おやつもたくさん頂きびっくりしていました。今後ともどうぞよろしくお願ひします。
- 子ども達も当日を心待ちにしていたましたが、イベントを終え、「楽しかった」「また行きたい」等、笑顔で話してくれました。
当施設にお声掛けして頂きましたこと、子ども達に貴重な体験の機会を頂き、重ねて感謝申し上げます。
- 送迎バスをだしていただいたこと、本当に助かりました。ありがとうございました。

児童養護施設に対する体験活動の実施支援について

1 甘木山学園の訪問について

- 令和5年9月16日（土）に「未来子どもチャレンジふくおか支援の会」事務局が、大牟田市の児童養護施設「社会福祉法人甘木山学園」を訪問し、「折り紙ヒコーキ」体験会を開催しました。
- 当日は、支援の会事務局のスタッフ2名が折り紙ヒコーキの折り方を指導。学園の約30名の子ども達は楽しみながらも真剣に取り組んでいました。
- また、折り方が分かった子は分からない子に教えてあげるなど、和気あいあいと折り紙ヒコーキを楽しみました。



2 折り紙ヒコーキについて

- A4のコピー用紙を使用し飛行距離や飛行時間により競う「折り紙ヒコーキ」は、作成や投げ方の創意工夫を通じ自分の成長を実感してもらうことを目的としています。
 - 小学生を対象とした各地区で開催される予選会にて一定の基準をクリアすれば「県大会」に出場することができます。
 - 予選会は、各地区で行われる予選会のほか、各種団体が、所属する子ども等のために独自で開催することもできます（※）。
- ※ 折り紙ヒコーキの資格をもった者が運営する必要があります

3 予選会について

- 折り紙ヒコーキの資格を持つ支援の会事務局スタッフの指導のもと、甘木山学園独自で「予選会」を10月16日（月）に開催。予選突破者のうち1名が県大会に出場しました。



未来にチャレンジ！子ども科学教室について

1 未来にチャレンジ！子ども科学教室について

- 令和6年3月2日（土）に、九州工業大学と未来子どもチャレンジふくおか支援の会の共催で、筑豊地区の子ども食堂利用者を対象に「未来にチャレンジ！子ども科学教室」を開催。支援の会は、材料費負担や会場への送迎バスチャーターなどを担当しました。
- 当日は、飯塚市及び桂川町の子ども達や引率者 25 名が参加しました。



2 体験活動の内容について

- 子ども達は、講師の大竹准教授から、飛行の歴史や原理についての講義を受けました。
- その後、「模型グライダー」「ゴムで飛ぶ模型飛行機」「ドローン」「羽ばたき飛行ロボット」を実際に飛ばし、それぞれの飛び方の違いについて観察しました。
- 子ども達は、楽しみながらも、真剣に飛行体の実験に取り組みました。

3 参加者の声

- 「飛行機を飛ばすことができて楽しかった」「また実験をやりたい」「子どもが科学に関心を持ってくれればと思い参加させてもらった。先生の話や実験を通じて元気をいただいた。とてもよい体験だった」などの感想が寄せられました。子ども達は笑顔で会場を後にしました。